

テーブル、インデックス用定義文の抽出

Oracle SQL Developer の機能を使用して、
表領域、表、索引の定義文を入手する

メニュー・ツール → データベース・エクスポート

エクスポート・ウィザード - ステップ 1 / 5

ソース/宛先

ファイル	エクスポートするファイル名の指定
接続	Oracle への接続ユーザー指定 ▼

DDL オプション

- スキーマの表示
- 記憶域
- 終了文字
- 整形表示
- BYTE キーワードを含める
- FORCE をビューに追加
- DROP 文を含める
- GRANT 文を含める
- 依存オブジェクトを自動的に含める

次へ



エクスポート・ウィザード - ステップ 2 / 5

エクスポートするタイプ

オブジェクト・タイプ

- すべて設定
- 表
- ビュー
- 索引
- パッケージ仕様部
- パッケージ本体
- プロシージャ
- ファンクション
- トリガー
- キュー
- タイプ
- 順序
- マテリアライズド・ビュー
- マテリアライズド・ビュー・ログ
- シノニム
- データベース・リンク
- 制約
- データ
- キュー表

次へ



エクスポート・ウィザード - ステップ 3 / 5

オブジェクトの指定

ユーザー名を選択 | ▼ ALL | ▼

実行

>

>>

<<

<

次へ

ユーザー名 を選択して、実行 ボタンをクリックすると、左側ボックスに対象オブジェクトの一覧が表示される

定義文の DDL をエクスポートしたいオブジェクトを選択し、> をクリックすると、右側ボックスに移り、エクスポート対象に選択されることとなる



エクスポート・ウィザード - ステップ 4 / 5

データの指定

ユーザー名を選択 | ▼ ALL | ▼

実行

>

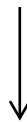
>>

<<

<

次へ

ユーザー名 を選択して、**実行** ボタンをクリックすると、左側ボックスに対象オブジェクトの一覧が表示される
データをエクスポートしたいオブジェクトを選択し、**>** をクリックすると、右側ボックスに移り、データがエクスポート対象に選択されることとなる



エクスポートのサマリ

Export Summary

ファイル:D:\Temp\export.sql

 接続:ユーザー接続

DDL オプション

スキーマの表示

記憶域

終了文字

整形表示

終了

終了 をクリックすると、エクスポート用の SQL スクリプトが作成される

作成された SQL 文)

ファイル名 : D:\Temp\export.sql

内 容 : -----

-- File created - 水曜日-5月-23-2018

 DROP TABLE "KOZUE"."DEPT" cascade constraints;

DROP TABLE "KOZUE"."EMP" cascade constraints;

DROP TABLE "KOZUE"."EVENT_KIND" cascade constraints;

 -- DDL for Table DEPT

CREATE TABLE "KOZUE"."DEPT"

("DEPTNO" NUMBER(2,0),

"DNAME" VARCHAR2(14 BYTE),

"LOC" VARCHAR2(13 BYTE)

) PCTFREE 10 PCTUSED 40 INITRANS 1 MAXTRANS 255

NOCOMPRESS LOGGING